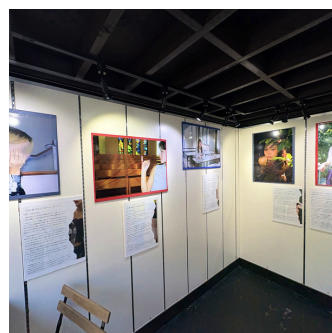


CENTER FOR GENDER STUDIES

NEWSLETTER VOL.3



【学生企画】写真展「『ふつつ』の女子大生展」

2024年度から取り組んできた本企画。キャンパス内にいるフェリス生は多様で、一人ひとりにそれぞれの『ふつつ』があります。「あなたも素敵、私も素敵」という認め合う空気にはあたたかさがあり、そのあたたかさを共有できる空間を作りたいという思いから、写真展「『ふつつ』の女子大生展」は企画されました。企画・運営、撮影、被写体に至るまで、フェリスの学生が担いました。被写体となった学生たちには、セクシュアリティやルッキズム、サークル活動、進路など、各々の深いエピソードを有しています。そのため、来場者が写真を見るだけでなく、言葉にもじっくりと向き合えるよう、被写体である学生のエピソードを写真に添えて、展示しました。

12月9日～18日に本学附属図書館にて学内者向けに展示を行い、その後展示方法をブラッシュアップした上で、2026年2月9日～15日にアートギャラリー・アウル（横浜市中区）にて一般公開いたしました。学内で行った展示では、観覧した学生から共感や賛同の声が多くありました。価値観を押しつけ合うのではなく、「キャンパスのどこかに、このような思いを持った学生がいる」という希望が持てるような空間となったように思います。学外にて一般公開した展示には、約90名の方にご来場いただき、「フェリス生＝お嬢様」という固定的なイメージだけではなく、現在のフェリス生を知っていただくきっかけになりました。

発案した学生は、単に鑑賞することだけに終わらせず、ケアのまなざしに満ちたあたたかな空間となるよう意識し、準備を進めました。新しい価値観を受け入れることや、自分らしさを失わなくても良いこと、この写真展を通して前向きに明日を生きる時間が届けられていることを期待しています。

学生企画（大学祭）

Café Gem*

アニメとジェンダー（7月8日）

*学生同士や教員と共にジェンダー・セクシュアリティやキャリアについて気軽に話さカジュアルな交流座談会

学生スタッフが好きな以下のアニメやドラマを、ジェンダー・セクシュアリティの観点から分析し、作品の中にある多様性について議論しました。このCafé Gemをきっかけに、大学祭のGem展示の方向性が決まりました。

<取り上げた作品>

『薬屋のひとりごと』 / 『HUGっと!プリキュア』 / 『SOTUS/ソータス』 / 『ケロロ軍曹』

展示『『解き放て、自分』展』、写真展（11月2・3日）

ジェンダー・セクシュアリティ・恋愛観が多様に描かれている作品を共有したいという学生スタッフの発案から、『『解き放て、自分』展』～心のままに生きる物語～は企画されました。性別、恋愛、家族などの多様なあり方や、自分らしく心のままに生きる大切さを教えてくれる物語について、パネルを制作し展示しました。BLドラマチャートや人気投票企画も盛り上がりました。

<取り上げた作品（一例）>

『汝、星のごとく』 凧良 ゆう(著) / 『獣の奏者』 上橋 菜穂子(著) / 『ザリガニの鳴くところ』 ディーリア・オーエンズ(著)、友廣 純(訳)



写真展では、12月に学内者向けに行う展示の一部を公開し、来場者が写真に添えられたエピソードをじっくり読む姿がありました。

パトロール

大学祭でのパトロールは、Gemの設立当初から、姉妹団体である公認団体「Halo-Halo Club」とともに取り組んでいる活動です。盗撮や来場者による迷惑行為等の未然防止を目的として、「女子大生の身は女子大生で守ろう」をモットーに掲げ、取り組んでいます。大学祭実行委員会とも連携しながら、Gemのオリジナルジャンパーを着用して行いました。



Café Gem

『『カードキャプターさくら』から読み解く“好きの多様性”』（12月16日）

大学祭のGem投票企画で最も票を集めた『カードキャプターさくら』をテーマに、Café Gemを開催しました。学生と教員で、キャラクターたちの感情や関係性を考察し、多様な“好き”のかたちについて話し合いました。この作品では、性別や年齢、社会的立場などに関係なくお互いを思い合っています。

ディスカッションを通して、“好き”という気持ちにわざわざ何かを定義づける必要はないのかもしれない、だからこそ多くの人がこの物語に共感するのだと感じました。



地域・社会連携

月経衛生デー*イベント（5月28日～6月中旬）

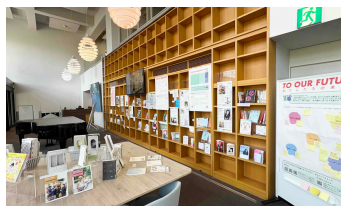
*月経に関する偏見やハードルをなくして、すべての人がクリーンな環境で月経をコントロールできることを目指すための日

毎年5月28日は「世界月経衛生デー」。これにあわせてサニタリー用品の配布イベントを開催しました。期間中は、環境に配慮したサニタリーブランド「limerime（ライムライム）」のサニタリーパッドや月経に関する冊子をプレゼントしました。学生・教職員の多数の参加があり、盛況のうちにイベントは終了。多くの方に月経について考えてもらうきっかけとなりました。

5月29日には、須藤紫音さん（株式会社VVV（ヴィースリー）代表）をお呼びしてCafé Gemを実施。須藤さんからは、日本ではあまり知られていない世界月経衛生デーを広めるために始めたという今回のプレゼント企画立ち上げの背景や、日本における月経に対するタブー意識、それに伴う情報や商品へのアクセスの難しさなどについてお聞きしました。当日は、日本ハビタット協会から専務理事の山本博子さんと事務局長の篠原大作さんも参加し、ケニアでは過半数の人が貧困のために生理用品を買えない状況にあるというお話がありました。生理を社会問題としてとらえていく重要性を改めて感じさせられました。



The personal is political：政治参加とジェンダー（6月16日～27日）



2025年3月に渋谷PARCOで開催された「FIFTYS PROJECT ジェンダー平等とわたしたち」（企画：長尾悠美さん（セレクトブティックSister代表）、デザイン：シシヤマザキさん（NHK連続テレビ小説『虎に翼』タイトルバックを手がけたアーティスト））の企画展示パネルをお借りし、本学図書館にて展示しました。また、Gemの教員とトンガ坂文庫*による選書、フェリスOGおよび教員によるパネルメッセージの展示も行いました。

公開講座では、鈴木ちひろさん（国分寺市市議会議員、本学卒業生）、長尾悠美さんをお迎えし、同日Café Gemも開催しました。鈴木さんからは気候変動、若者の声を政策へ反映することの意義、ジェンダー平等の3つのトピックを中心にお話いただきました。「若者が代表になることで、若者に希望を与えることができる」という言葉は、学生たちにとって良い刺激かつ希望となったように思います。長尾さんからは、本企画に至るまでの経緯や自身の活動に対する思いを伺いました。経験に基づいたフェミニズム視点での社会のとの関わり方からは強い熱量を感じました。

*三重県尾鷲市九鬼町（くきちょう）の漁村にある古民家を改装した書店



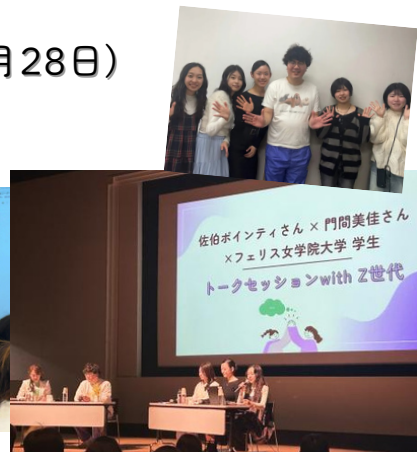
【協力】横浜市男女共同参画センター主催

「ポインティとはなそう！わたしたちの性と健康」（2026年2月28日）

「ポインティとはなそう！わたしたちの性と健康」（特別協賛：中外製薬）のトークセッションに学生スタッフが登壇しました。

マルチタレントの佐伯ポインティさんと、産婦人科医の門間美佳先生とともにSRHR*をテーマに議論を展開。学生たちは、学内で実施したアンケート調査の結果をもとに、生理や性的同意、性や生殖について話すための安心・安全な場所作りの重要性等について、大学生という立場から率直な意見や考えを述べました。参加者はオンライン配信も含め約250名にのぼり、関心が高いトピックであることが伺えます。Gemは、今後もSRHRを含むジェンダー・セクシュアリティに関する活動を実施していきます。

*Sexual Reproductive Health and Rightsの略。性と生殖に関する健康と権利のこと。



キャリア教育

副専攻*「ジェンダーとキャリア」

7月30日～8月5日、前期集中講義「プロジェクトで学ぶ(1)」では、スリール株式会社によるキャリア支援プログラム「私の未来に“正解”はない。ライフも、ワークも、自分らしく描く6日間」を実施しました。履修した学生たちは、子育て中の共働き家庭へのインターンシップや、フェリスOGも活躍するキンドリルジャパンへのオフィスツアー、多様な働き方をされているゲストトークなどを通じてロールモデルと出会い、働く自分をポジティブにイメージできるようになりました。

2026年2月2日～4日、後期集中講義「プロジェクトで学ぶ(2)」では、「ジェンダーを仕事にする」というテーマで、日本テレビ、神奈川県男女共同参画センター、株式会社VVVの方々からお話を伺いました。現在どのようなかたちでジェンダーの諸問題に取り組んでいるのか、そうした仕事を始めた経緯はどのようなものだったかなど、貴重なお話を伺うことができました。インタビューの準備から発表まで、授業は学生が主体となって計画し、非常に充実した3日間となりました。

*全学部学科横断型の副専攻制度で、4つの専攻により構成されている。指定科目群から所定の単位を修得することで、修了資格を得ることができる。



他大学との交流

【協力】

横浜国立大学「あなたにとっての“生理って？”」展（4月14日～18日）



2024年10月にGemの学生が作成した生理の展示を横国の学生が視察されたことが、両大学の交流の始まりでした。横浜国立大学附属図書館の展示コーナーでは、生理痛の体験やフェムテック用品の紹介、生理用品の配布などもあり、充実した内容でした。座談会では、生理のモヤモヤや理解度、パートナーとの向き合い方などを共有し、生理は女性だけのものではなく、あらゆるジェンダーの人々がともに向き合っていく必要があることを考える機会となりました。

京都女子大学・筑紫女学園大学との交流会（2026年2月13日）

関東（フェリス女学院大学）・関西（京都女子大学）・九州（筑紫女学園大学）でジェンダー平等に関する活動をしている3校が集い、交流会を行いました。オンラインミーティングやグループチャットを用いて話し合いを重ね、本学で交流会当日を迎えました。

各大学の活動内容の共有、「女子大学」の意義、ジェンダー問題の地域差など、女子大という共通点や地域ごとの違いを意識した交流会となりました。また、写真展「『ふつう』の女子大生展」（横浜市中区）にも足を運んでもらい、学生同士が意見交換をおこなうなど、充実した交流の時間となりました。



各種イベントの主催

戦後80年企画

「彼女のことを忘れない～戦時性暴力の記憶～」(7月10日～25日)

2025年は戦後80年の節目の年でした。本企画は、講演会、書籍・パネル展示及び映画上映会・トークショーを含む3部構成で行いました。

「慰安婦」問題として知られている旧日本軍による戦時性暴力被害の賠償や名誉回復、そして記憶継承の問題は、戦後80年を迎えた今もなお解決には至っていません。当時者たちのほとんどが亡くなっていく中で、ジェンダーの観点から、その記憶や語りを風化させないよう努めていくことは、二度と戦時性暴力も含む戦争の惨禍が起こらないようにする私たちの責務でもあります。

7月10日、17日に開催した全3回の講演会では、戦時性暴力をめぐる日本における争点や、被害者たちの存在が政治化されないための証言への向き合い方などについて、回ごとに異なるテーマを設定しました。

書籍・パネル展示は、緑園キャンパス附属図書館にて、アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」から借出した慰安婦に関するパネルを展示しました。いずれも外部に公開し、地域社会に向けて広くこの問題を学ぶ機会を提供することができました。

7月17日には、映画『私が描きたいこと』(クオン・ヒョ監督、2012年)の上映とトークショーを実施。上映会では学生スタッフが絵本『花ばあば』の朗読を披露し、今を生きる若い学生の声や、当時者の経験に寄り添い、包み込む過程を目撃することができました。



D&I ZONE PROJECT Vol.01 「私が変わる、世界が変わる」 ～フェリス卒業生による社会活動の経験から学ぶ～ (10月14日)

D&I ZONEとは：

「Diversity & Inclusion (多様性と包摂)」の略で、CLA棟2階にあるジェンダースタディーズセンター、ボランティアセンター、バリアフリー推進室、キリスト教センター、国際センターがD&I共通理念のもと共同企画を実施しています。

本企画はD&I Zone企画の第一弾として、ボランティアセンターとジェンダースタディーズセンターの共催により実施した、座談会形式の講演会です。講師には本学卒業生で、それぞれの形で社会運動に携わってきた新倉久乃さん(大学院人文科学研究科修了/和光大学研究員/NPO法人カラバオの会理事/本学非常勤講師)と構二葵さん(国際交流学科卒業/ジャーナリスト/8bitNews CCO)をお招きしました。

「どのような課題と向き合い実践しているか」「市民の役割とは何か」という二つのテーマを軸に、お二人の経験を通してDiversity & Inclusion (多様性と包摂)について考える機会となりました。受講した学生たちは、自ら行動することの意義と個人が社会を変える可能性をについて、お二人のメッセージをしっかりと受け取めました。



Café Gem (一部抜粋)

新入生歓迎会

4月の新歓ではピザパーティーを行い、ピザをつまみながら教員や先輩学生からGemの活動内容を聞いたり、新入生の気になるトピックについて懇談したりしました。新学期ということで、大学生活について気になることを相談している新入生もみられました。

5月の新歓では、無地のシール台紙に好きなイラストや文字を書いてオリジナルのステッカーを作りました。手を動かしながらのほうが会話が弾む学生もいたようで、個性的なステッカーができて素敵な企画でした。新入生にとって不安と期待が入り混じる時期に、教員や明るい先輩学生と過ごす時間は有意義だったようです。



多様なキャリア

5月のCafé Gemはキャリア特集。13日と27日の2回に分けて開催しました。第1回のゲストは本学OGで和光大学研究員・NPO法人カラバオの会理事の新倉久乃さん。長らくタイ話者向けのケースワーカーとしてご活躍され、大学院ではその経験を生かして研究されました。ケースワーカーの仕事や滞在経験のあるアメリカでの就職活動と日本の就職活動の違いについてお話いただきました。

第2回のゲストは山崎(齋藤)美和子さん(処デザイン学舎代表・慶應義塾SFC研究所上席所員・株式会社GRACE事業推進本部マネージャー)。民間企業勤務から起業家への華麗な転身を遂げた経験から、型にはまらない主体的な働き方をお聞きしました。ゲストのお二人の豊かな社会経験から、参加した学生たちは画一的ではない、多様なキャリアのあり方のインスピレーションを得ることができたようです。

Pride Month 「セクシュアリティと恋愛観」 「自分のこと、大切にしていますか？」

6月3日はセクシュアリティと恋愛観について、学生スタッフ同士の交流を踏まえたCafé Gemを行いました。性のあり方は多様で、そこから生まれる恋愛観も個人の生き方に深く関係しています。今回は「性のあり方シート」を活用し、性自認やどんな人にドキドキするかなどを記入し、自分が話せる範囲で参加者とともに話し合いました。恋愛がすべての人の共通の話題になってしまうことへの疑問もあがり、和気あいあいとした雰囲気の中、「恋愛」の扱い方を考え直す機会になりました。

6月10日のCafé Gemは、企画者自身の経験を語ることで「自分を大切に」とは何か、その重要性を参加者に考えてもらいたいという思いから開催しました。現代では痩せていることが美とされ、その価値観が特に「若い女性」を苦しめていると感じています。しかし、他者の評価に左右されるのではなく、自分自身が自分を認めてあげることが大切だと思います。

当日は共感の声が多くあがり、経験からの語りや勇気や希望を与え、自分との向き合い方を見直すきっかけになったようです。



「多様なジェンダーを知ろう～トランスジェンダー当事者をお招きして～」



大阪府島本町議の河上りささんをCafé Gemにお招きしました。河上さんは、トランス女性としての経験をもとに、LGBTQ+関連の講演会やYouTubeでの情報発信を行っています。議員としての生活や、自分とは異なる考えの人がいることを配慮せずに発言し、その失敗に気づき、謝罪を繰り返してきたことなど、赤裸々にお話していただきました。自分の経験の発信を委縮させる必要はない一方で、マイノリティの声を尊重しすぎてマジョリティがマジョリティの経験を語れないという状態になってはいけないという言葉は印象的でした。また、学生たちがジェンダーを学ぶきっかけや、学んでからの自身の変化について共有しました。

最後に、河上さんが制作している映画についても伺いました。この映画では、一人のトランス女性を一人の役者が演じるのではなく、性別移行の前後で異なる性別の役者が演じるということです。これは、性別移行をよりリアルに表現し、共感を得られやすくするための工夫だそうです。映画完成が待ち遠しいです！冊子「トランスジェンダーのリアル」もいただきました。



「フェムケアを学ぶ～妊娠と避妊～」

7月2日と16日に行われたCafé Gemでは、フェリスの校医である産婦人科医（菊地紫津子医師）をお招きしました。妊娠する条件や避妊の方法を学び、ホルモンの薬の種類についても詳しく説明いただきました。また、実物大の子宮の模型やミレーナ・コンドームなどの避妊具、赤ちゃんの模型を抱っこする体験もでき、子宮や身体、妊娠や避妊、ホルモンの薬などについて詳しく学べる貴重な機会となりました。ピルに興味はあるものの不正出血などが心配という学生は、このCafé Gemで不安に対する回答を得ることができ、その後実際に服用を開始することができたそうです。



「恋愛ってそもそもなんだろう？」 「ノンバイナリーって聞いたことある？」

7月10日は、アロマンティックについて考えるCafé Gemを当事者の学生スタッフが企画しました。アロマンティックとは、恋愛感情がない、あっても希薄な人を指すセクシュアリティです。恋愛の多様性や理解の広がる現代ですが、恋愛感情自体がない人がいることへの認知度は広まっていないように感じます。学生スタッフの実体験を話した後、参加者同士で「恋愛感情と友情の違い」について意見交換し、アロマンティックな思考に触れる時間となりました。

7月14日には、「国際ノンバイナリーデー」にあわせて、ノンバイナリーについての理解を深めるためのCafé Gemを開催しました。「ノンバイナリーについて説明してみよう！」と言われて、うまく言葉にすることができますか？きっと難しいと思います。小学校高学年からどんどん低くなる声と性別という枠に収められるストレスを感じ続けた生活の末、ノンバイナリーになった学生スタッフが、自身の経験を交えて企画を進行しました。



2025年度活動一覧

4月&5月

- ・ボラセン・バリフリ・Gem合同説明会
- ・新入生歓迎会
- ・【協力】横浜国立大学「あなたにとっての“生理って？”」展見学&交流
- ・Café Gem「多様なキャリア」(ゲスト：新倉久乃さん、山崎(齋藤)美和子さん)
- ・Café Gem「ジェンダーを仕事にすること」(ゲスト：須藤紫音さん)
- ・月経衛生デーイベント (limerimeサニタリー用品配布)

6月&7月

- ・Pride Month Café Gem「セクシュアリティと恋愛観」、「自分のこと、大切にしていますか？」
- ・「“The personal is political”：政治参加とジェンダー」(ゲスト：鈴木ちひろさん、長尾悠美さん)
- ・Café Gem「多様なジェンダーを知ろう～トランスジェンダー当事者をお招きして～」(ゲスト：河上りささん)
- ・Café Gem「フェムケアを学ぶ～妊娠と避妊～」(全2回)
- ・Café Gem「恋愛ってそもそもなんだろう？」、「ノンバイナリーって聞いたことある？」
- ・戦後80年企画「彼女のことを忘れない～戦時性暴力の記憶～」(ゲスト：リ・リョンギョン聖公会大学研究教授、矢野久美子教授)
- ・前期副専攻「プロジェクトで学ぶ(1)『私の未来に“正解”はない。ライフも、ワークも、自分らしく描く6日間』」(担当教員：山本千晶准教授)

10月&11月&12月

- ・D&I ZONE PROJECT Vol.01「私が変わる、世界が変わる」(ゲスト：新倉久乃さん、構二葵さん)
- ・【共催】JOICFP出前授業「I LADY.プロジェクト」
- ・ハロウィンピクニック
- ・大学祭(「Gem写真展」、「『解き放て、自分』展」、パトロール)
- ・【共催】SOMPO×女子サッカー共創『Our Storiesプロジェクト』
- ・Café Gem「『カードキャプターさくら』から読み解く”好きの多様性”」

1月&2月&3月

- ・後期副専攻「プロジェクトで学ぶ(2)『ジェンダーを仕事にする』」(担当教員：関口洋平准教授)
- ・写真展「『ふつう』の女子大生展」@Art gallery OWL
- ・京都女子大学と筑紫女学園大学との交流
- ・【協力】横浜市男女共同参画センター共催企画「ポインティとはなそう！わたしたちの性と健康」
- ・韓国大邱フィールドトリップ(戦後80年企画の続編)



メディア掲載

カナロコ(神奈川県新聞)

横浜、若者が性の悩み学ぶイベント 自分の考え「日頃から話せる関係性を」(2026年3月1日)
<https://www.kanaloco.jp/news/social/article-1250923.html>



東京新聞デジタル

「お嬢様学校」と見られがちなフェリス女学院大…実はこんなに多様です 学生がオープンにした「素颜」とは(2026年3月8日)
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/379103>



制作・編集：Gem教職員および学生スタッフ

〒245-8650

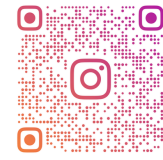
神奈川県横浜市泉区緑園4丁目5-3 CLA棟2F
フェリス女学院大学 ジェンダースタディーズセンター
gender@ferris.ac.jp



Gem 公式HP



Gem 大学HP



FERRIS_GENDER_STUDIES
Gemインスタグラム